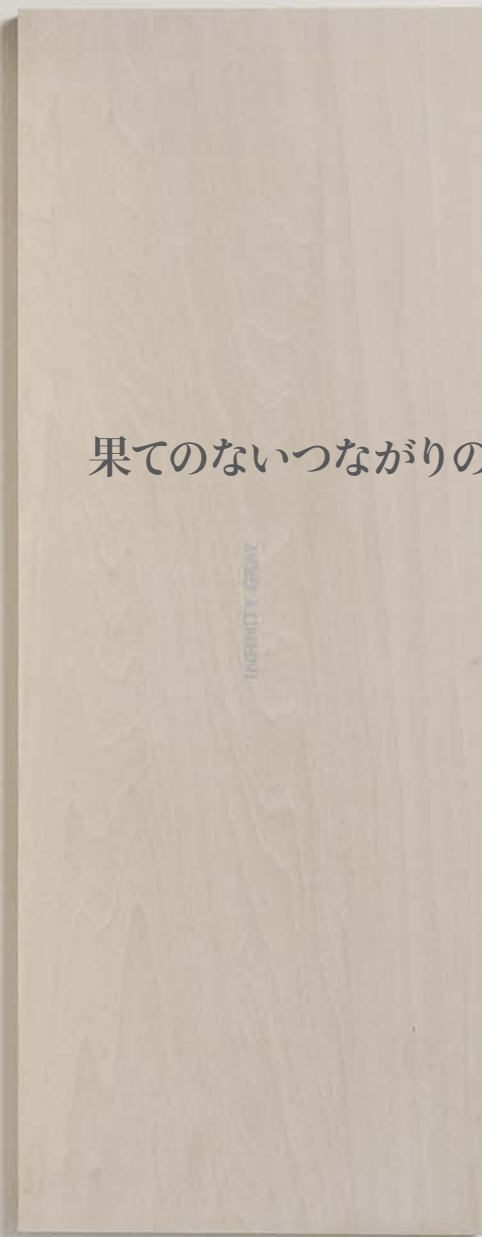


Amid the endless connections I just stood,  
Which rendered me part of eternity.



Nobuaki Onishi 大西 伸明

果てのないつながりのなかただ在りて私は永久の一部となりし

2018年9月15日(土) - 10月6日(土)

M A 2 Gallery

作品とそれを包む箱という関係について最近よく考えている。箱に作品を入れるだけだと中でモノが揺れたりして壊れてはいけけないので、普通は梱包材かなにかで包み込んで箱と作品の隙間を埋めたりする。最近は少し丁寧に、箱の中に支えを作ったり（出来るだけ簡素に）、また、支えと作品の間に黄袋を作って覆っている。そのうちに箱から作品に向かって作品の表面にピタリと合い支える形を考えることは、型取りしてネガを作っていくことに近い感覚だと気がついた。そして箱を包む風呂敷のようなものを作ったりして意識を箱の外側に向けると、箱が置かれている台や什器や床がとても気になってくる。そしてその作品や什器をまた包み込むように建物という箱があって、またそれが箱と隣り合って関係を結ぶなど果てしない感覚を感じる。よくよく考えると、僕の作品のほとんどはモチーフから型取りをして（ネガを作り）、そこから制作がスタートしている。モチーフや作品や箱の様々な隙間を考えて行くことがとても多い作業だなと思う。そして出来上がった箱はなんだか丁寧に設えられた棺のようにもみえてくる。棺に納まるまでの途方も無い時間と、ここから始まるまた果てしない時間の間、その果てしさの間を丁寧に埋められ繋がられた形。もはや作品の存在感が薄まっていくような、繋がりの中でブレているような、どこまでが作品なのかわからないような。そのような考えが今回の展示の起点になっている。

大西伸明

オブジェ/箱：大西伸明 什器：SAT.PRODUCTS 縫製：園陽子 刺繍：(有)長野刺繍 孔版：小西景子 展覧会タイトル：土門藍

## 大西伸明 Nobuaki Onishi

1972年生。一貫して「存在」に対する問いをテーマに制作してきた大西伸明。唯一性の強い自然物や古物などを型取りし、その樹脂の表面を卓越した技術で、本物のようにリアルに描いてコピーをつくる「InfanityGray」。隠されている「裏面」「内側」に着目した周囲を映しこむ鏡面を持つ「Vacuum (真空)」のシリーズを展開。

五島記念文化財団の研修で、1年間ドイツに滞在。主なコレクションに兵庫県立美術館、岡山県立美術館、京都文化博物館、和歌山県立美術館、発電所美術館、徳島県立近代美術館、zabludowicz collectionなど。

MA2 Gallery

渋谷区恵比寿 3-3-8 Tel.03-3444-1133 www.ma2gallery.com 日・月・祝日 休み



Egg  
6X4.4X4.4cm paint on resin



oirukan  
24X26X20cm paint on resin



Box for oirukan  
Box for dekyu